

定例会見(平成27年5月20日)

議事次第

○定例会見 代表取締役社長 菅原 秀夫

○会見内容

1. 中期経営計画 2015-2017 の概要
2. 平成27事業年度事業計画の概要
3. 組織改編について
4. 「大地震の発生を想定した業務継続計画(BCP)第3版」の策定
5. 土木工事及び調査・設計業務における設計変更ガイドラインの策定
6. ETCの更なる活用
7. ISO10002 / JIS Q 10002 に基づく自己適合宣言をします
8. 環境への取組み
9. 「改善」の取組み ～質の高いサービスの提供を目指して～
10. 技術コンサルティング事業の受注状況等
11. 最近の通行台数状況

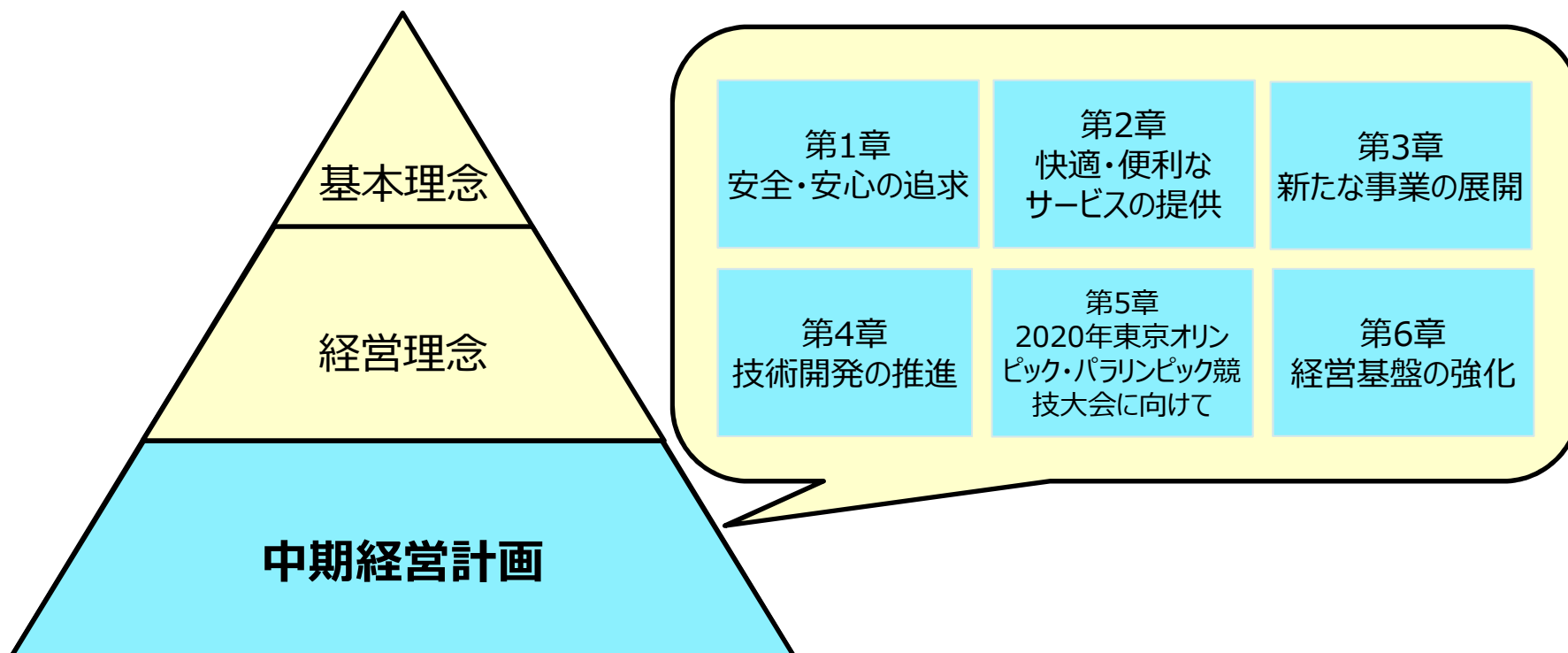
○質疑応答

1. 中期経営計画 2015-2017 の概要

[1] 中期経営計画の策定

会社設立10年を迎えるに当たり、基本理念に立ち返り、「安全・安心・快適」と「ひと・まち・暮らし」をキーワードとした「中期経営計画 2015-2017 **安全・安心・快適を追求し、いつも首都圏のひと・まち・暮らしを支えます**」を策定しました。

中期経営計画で定めた施策を首都高グループ一丸となって推進していくことにより、安全・安心・快適な首都高を提供します。



[2] 中期経営計画の主な取組みと数値目標

主な取組み	数値目標	
第1章 安全・安心の追求 ◎点検・補修・補強の実施 ◎大規模更新・大規模修繕の工事着手 ◎歩行者等立入対策及び自動車逆走対策の推進 ◎道路法違反車両対策の強化	東品川栈橋・鮫洲埋立部更新工事着手 池尻～三軒茶屋更新工事着手 高速大師橋更新工事着手 死傷事故率	2015年度 2015年度 2016年度 15.0件/億台km 以下
第2章 快適・便利なサービスの提供 ◎ネットワーク整備とボトルネック対策の推進 ◎新たな技術を活用した渋滞対策の推進 等	横浜環状北線完成 晴海線[晴海～豊洲]完成 板橋熊野町JCT間、堀切小菅JCT間改良完成 新たに導入する渋滞対策の実施累計箇所数 快適走行路面率 総合顧客満足度(5段階評価)	2016年度 2017年度 2017年度 8箇所 97% 3.50
第3章 新たな事業の展開 ◎都市型PA事業の展開 ◎コンサルティング事業の拡大	関連事業収益(連結) 関連事業利益(連結、税引前当期利益) 駐車場事業収益(連結) 国内技術コンサルティング業務受注金額 海外技術コンサルティング業務受注金額	55億円 9億円 29億円 4億円 1.5億円
第4章 技術開発の推進 ◎防災・減災の技術開発 ◎道路の点検・補修・補強・更新の技術開発及び活用	技術開発件数 開発技術活用件数 LED照明導入率	10件 25件 明かり部 25% トンネル部 50%
第5章 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて ◎オリンピックレーン等の交通運用計画の策定に着手 等		
第6章 経営基盤の強化 ◎組織体制の整備と人材育成 等		

2. 平成27事業年度事業計画の概要

平成27事業年度は、高速道路事業2,817億円、高速道路事業以外の事業250億円、総額3,068億円の事業費をもって、首都高を安全・安心・快適に保つ適切な管理、ネットワークの整備及び関連事業等を着実に推進します。

●高速道路事業（2,817億円）

事業区分	事業の概要	事業費
高速道路の新設、改築	・ 横浜環状北線などの新設 ・ 板橋熊野町JCT間改良、東品川栈橋・鮫洲埋立部等の大規模更新などの改築	1,435億円
高速道路の維持、修繕	・ 首都高速道路310.7kmの維持、修繕 ・ 池尻・三軒茶屋出入口付近等の大規模更新 ・ 大規模修繕	1,382億円

●高速道路事業以外の事業（250億円）

事業区分	事業の概要	事業費
パーキングエリアの管理	八潮パーキングエリアなどの管理	0.4億円
国、地方公共団体等からの受託事業	都道環状第2号線のトンネル整備事業など	236億円
その他の事業	駐車場事業、首都高速2号線高架下施設など	13億円

[1] 大規模更新事業等に着手

- (1) 東品川棧橋・鮫洲埋立部の現場着手及び高速大師橋、池尻・三軒茶屋出入口付近の更新事業に着手
- (2) 池尻・三軒茶屋出入口付近の更新事業に併せ、3号渋谷線の渋滞緩和を目的とした付加車線の増設事業に着手
- (3) 大規模修繕の推進

[2] ネットワーク整備・ボトルネック対策を着実に推進

- (1) 「横浜環状北線」、「横浜環状北西線」及び「晴海線」のネットワーク整備を推進
- (2) 中央環状線の機能をさらに有効に発揮させるため、車線拡幅等のボトルネック対策や入口の新設を重点的に実施
(板橋熊野町JCT間・堀切小菅JCT間の改良、小松川JCTの新設、渋谷入口の新設)

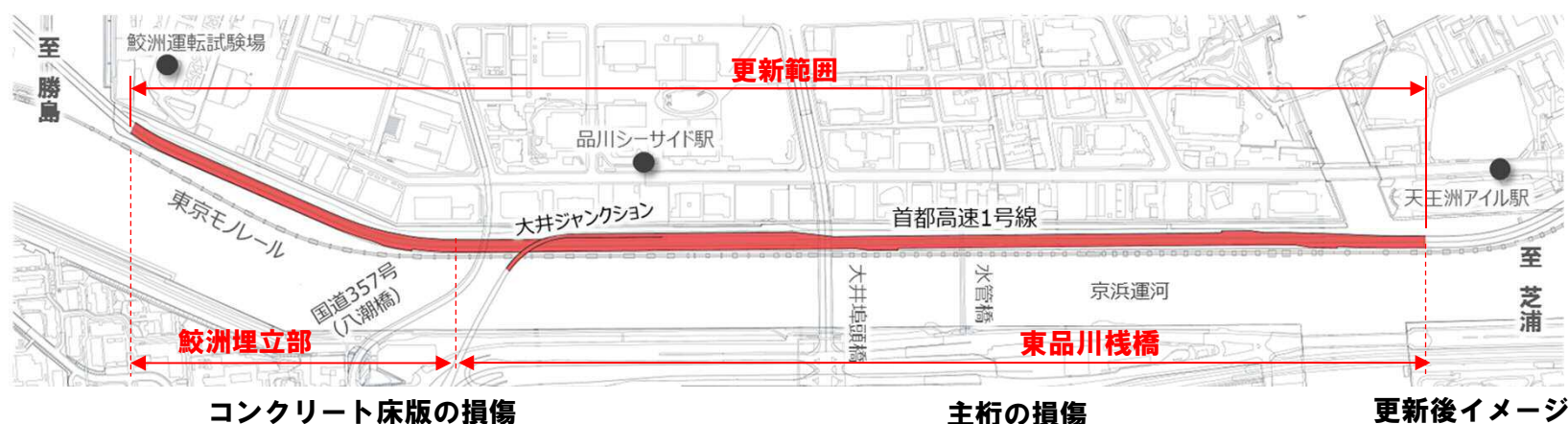
[3] 安全・安心への取組み

- (1) 施設安全対策の推進
- (2) 交通安全対策の推進

2-[1] 大規模更新事業等に着手

(1-1) 首都高速1号線 東品川栈橋・鮫洲埋立部の更新

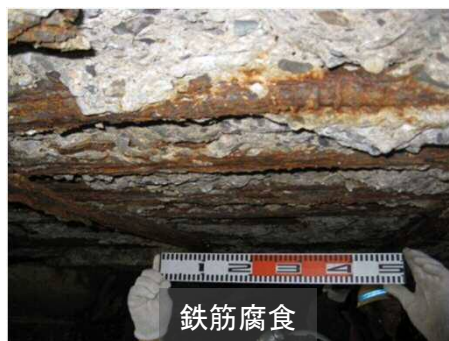
- 平成26年12月18日 都市計画変更決定
- 平成27年 2月18日 都市計画事業認可
- 平成27年度については、事業説明会(5/17、5/18)開催、年度内工事着手を予定。



コンクリート床版の損傷

主桁の損傷

更新後イメージ



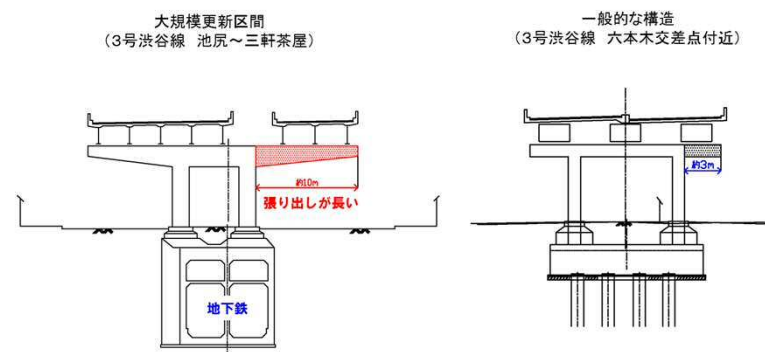
(1-2) 首都高速1号線 高速大師橋の更新

- 多摩川への影響を極力抑えるために、支間長を長くし、上部工を軽量化した橋梁（橋梁全体がたわみやすく疲労き裂が発生しやすい構造）
- 発生した疲労き裂の補修を実施しているものの、新たなき裂が多数発生している状況
- 疲労き裂が発生しない構造とするため、橋梁全体を更新（架け替え）
- 平成27年度については、都市計画手続きを実施予定



(1-3)・(2) 首都高速3号線 池尻～三軒茶屋の更新、付加車線増設

- 地下鉄と一体構造になっているため、一般的な橋脚に比べ横梁張出長が長く、床版が変形しやすいことにより、亀甲状のひび割れが多数発生
- 地下鉄への影響を考慮し、床版の重量を増やさずに、耐久性の高い床版に更新(取替え)
- 更新と合わせて、付加車線を設置することにより渋滞を緩和
- 平成27年度については、都市計画手続きを実施予定



コンクリート床版の亀甲状ひび割れ

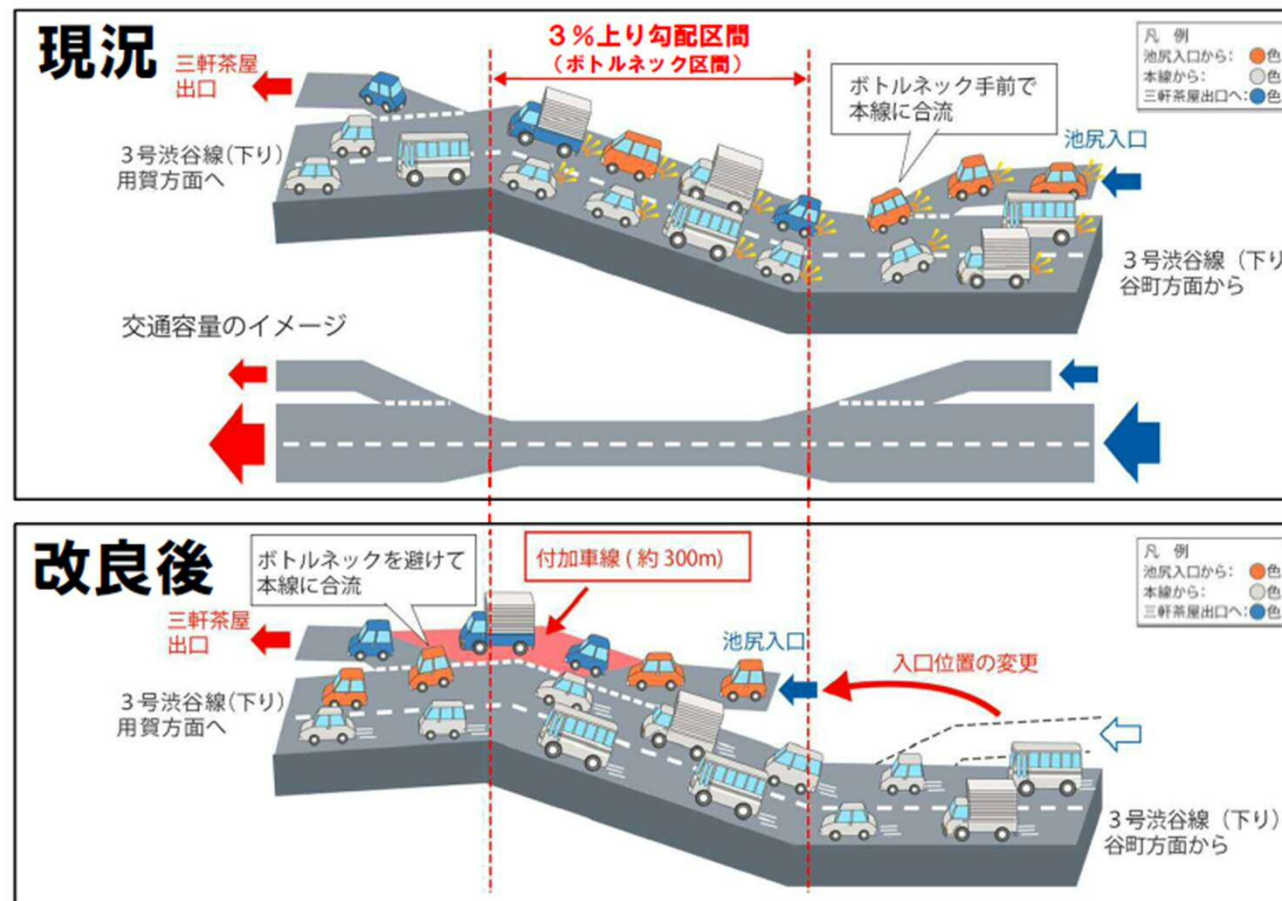
【首都高速3号線 池尻～三軒茶屋の付加車線増設について】

事業年度：平成39年度

（更新と併せて施工し、付加車線の設置や入口の位置変更は先行して実施の予定）

概要：

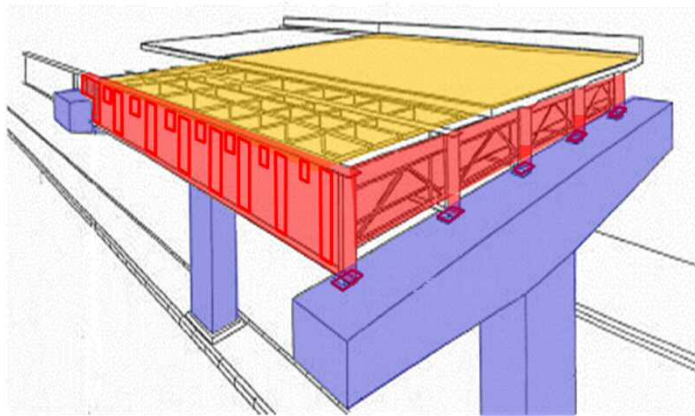
- ・上り勾配や入口合流によりボトルネックとなっている区間に付加車線を設置し、交通容量を増加。
- ・池尻入口の位置変更によりボトルネック区間の効率的な走行が可能。



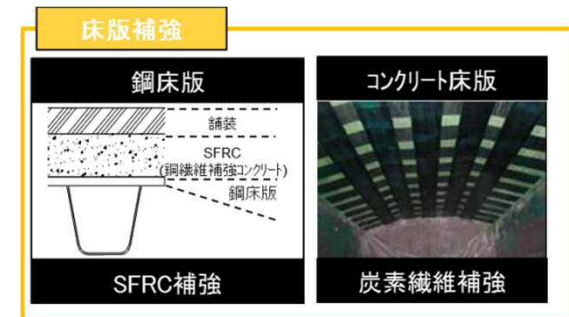
(3) 大規模修繕(特定更新等工事)の推進

- ・道路の高齢化に対して長期の安全・安心を確保するため、大規模修繕を実施。
- ・構造物の損傷状況、主要街路上の道路調整状況等を踏まえ、平成27年度は3号渋谷線、湾岸線等で実施予定。

<大規模修繕の実施内容>



橋梁単位で全体的に補修を行うことにより、新たな損傷の発生・進行を抑制しつつ長期の耐久性を向上



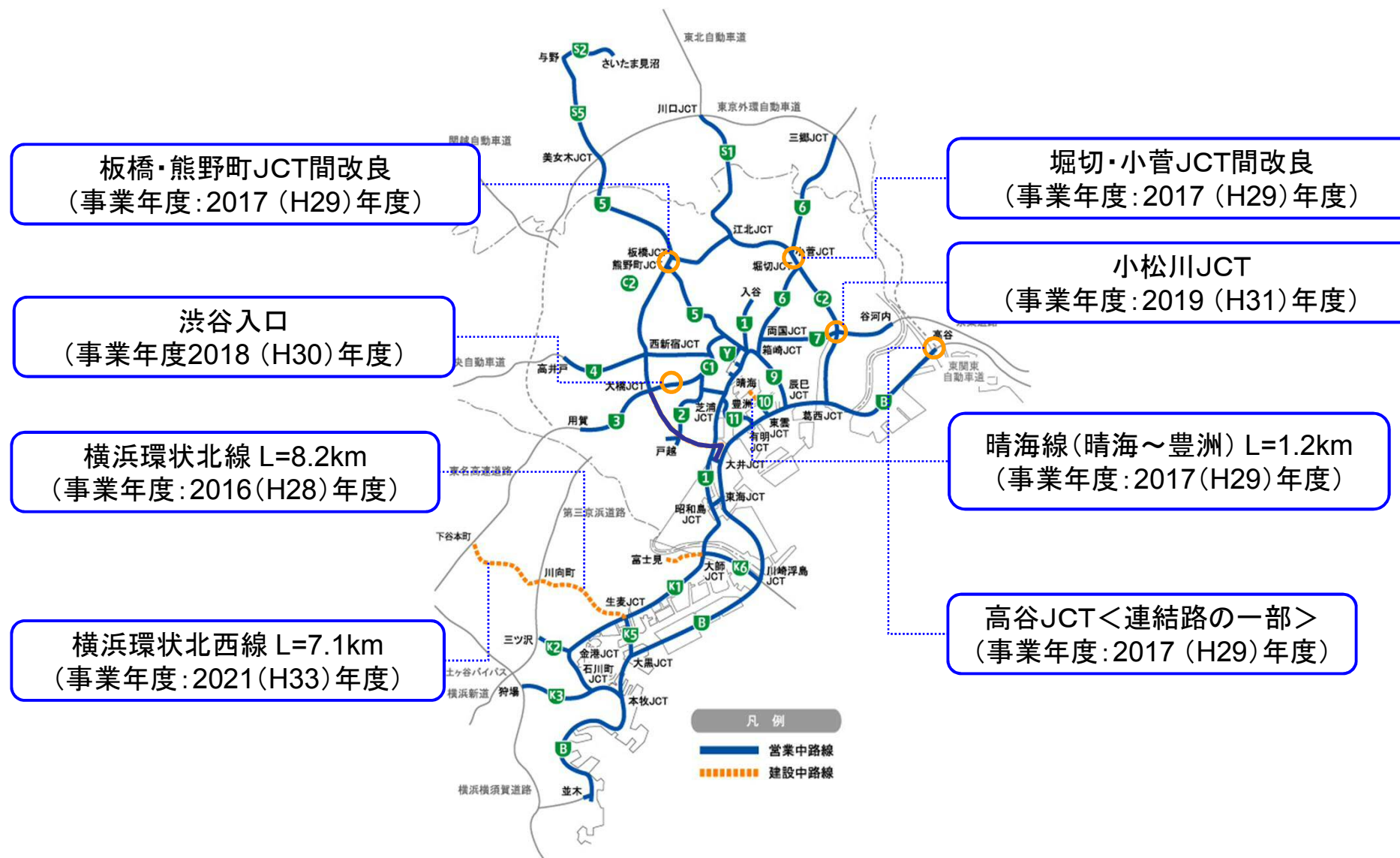
【参考】首都高速道路における更新計画

区分	路線	対象箇所	延長	供用 年度	事業費(税込) (用地費含む)	事業年度
大規模 更新	1号 羽田線	東品川棧橋・ 鮫洲埋立部	1.9km	S38	912億円	H26～38
		高速大師橋	0.3km	S43	244億円	H27～35
	3号 渋谷線	池尻～三軒茶屋	1.5km	S46	648億円	H27～39
	都心 環状線	竹橋～江戸橋 (日本橋区間)	2.9km	S39	1,412億円	H27～40
		銀座～京橋 (築地川区間)	1.5km	S37	559億円	H27～40
	小 計		8km	—	3,775億円	
大規模 修繕	3号渋谷線、4号新宿線 他		55km	—	2,487億円	H26～36
合 計			63km	—	6,262億円	



2-〔2〕 ネットワーク整備・ボトルネック対策を着実に推進

首都高ネットワーク整備・ボトルネック対策等位置図



(1-1) 横浜環状北線・北西線の進捗状況

- 北 線：本線シールドの内装工、施設工、高架区間の上部工、橋面工等を実施中
- 北西線：用地取得(全99画地):76%完了(画地ベース、平成27年3月末現在)
平成27年3月に横浜市より受託しているシールド工事を契約
平成27年秋頃より、港北地区・青葉地区高架部の下部工に着手予定



写真③ シールド内装工



写真④ 生麦JCT
(上部桁架設工)



写真① 横浜青葉IC・JCT
(北西線取付部)



写真② 港北JCT
(上部桁架設工)

- 豊洲地区の基礎工事を実施中
- 晴海運河部の上部架設工事を実施中
- 晴海運河部の中央部分について、平成27年4月に台船リフトアップ架設工法による桁架設を実施。



A large blue bridge is under construction over a river. A barge with cranes and construction equipment is positioned under the bridge structure. The bridge has a blue steel frame and concrete piers. The river is greenish-brown, and city buildings are visible in the background.

 首都高速道路株式会社

(2) 中央環状線機能強化の進捗状況

- 板橋熊野町JCT間 : 基礎工事、橋脚工事を実施中
- 堀切小菅JCT間 : 基礎工事、橋脚補強工事を実施中
- 小松川JCT : 河川部では基礎工事、橋脚工事、陸上部は準備工を実施中



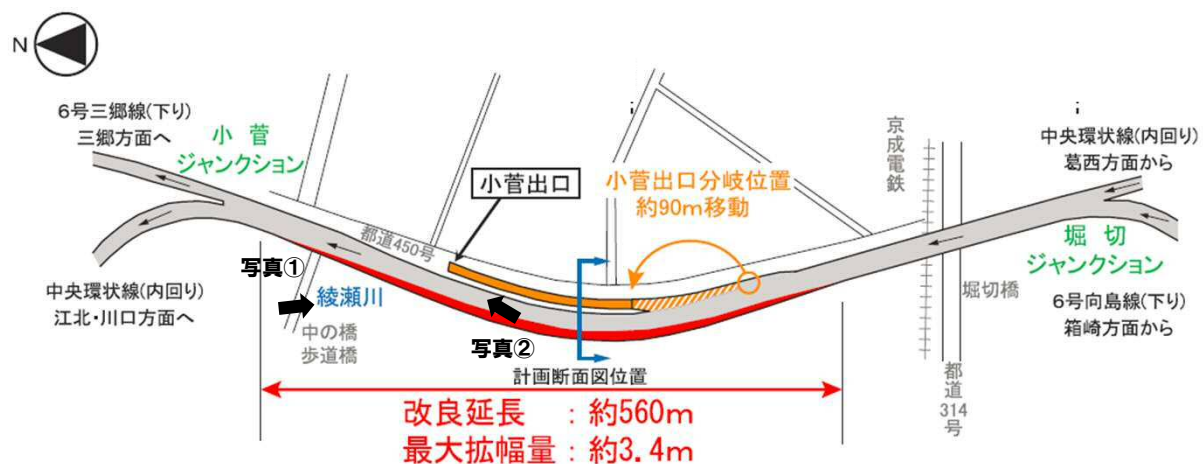
- 基礎工事、橋脚工事を実施中
- 2月より高速上夜間規制を本格的に開始



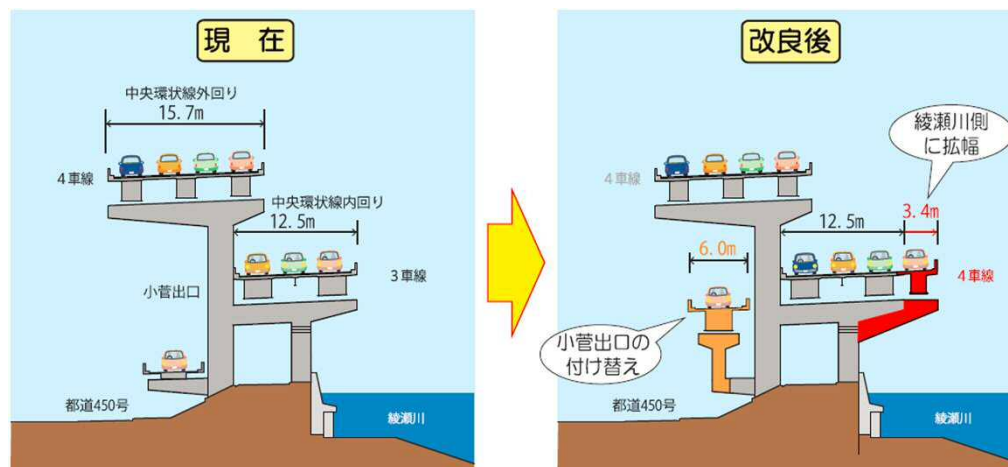
The diagram illustrates the improvement of the Yamanote Line crossing at the Yamanote Line crossing. The left side shows the current state (現在) with a 3-lane crossing and a 3-lane crossing. The right side shows the improved state (改良後) with a 4-lane crossing and a 4-lane crossing. The diagram includes dimensions for the crossing and the crossing area. The improved state shows a wider crossing and a more efficient layout.

(2-2) 堀切小菅 JCT 間改良の進捗状況

○ 基礎工事、橋脚補強工事等を実施中



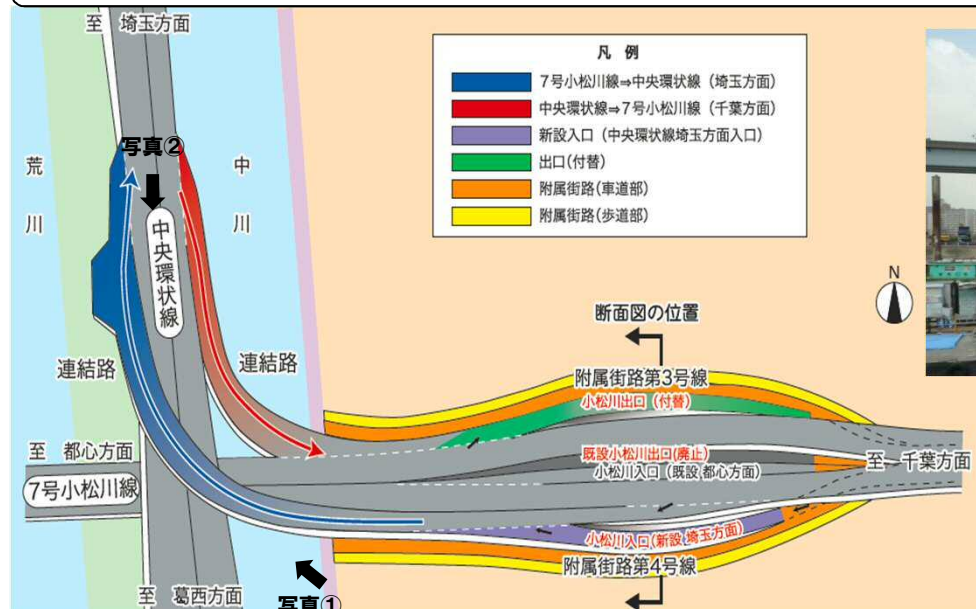
写真① 基礎工事状況



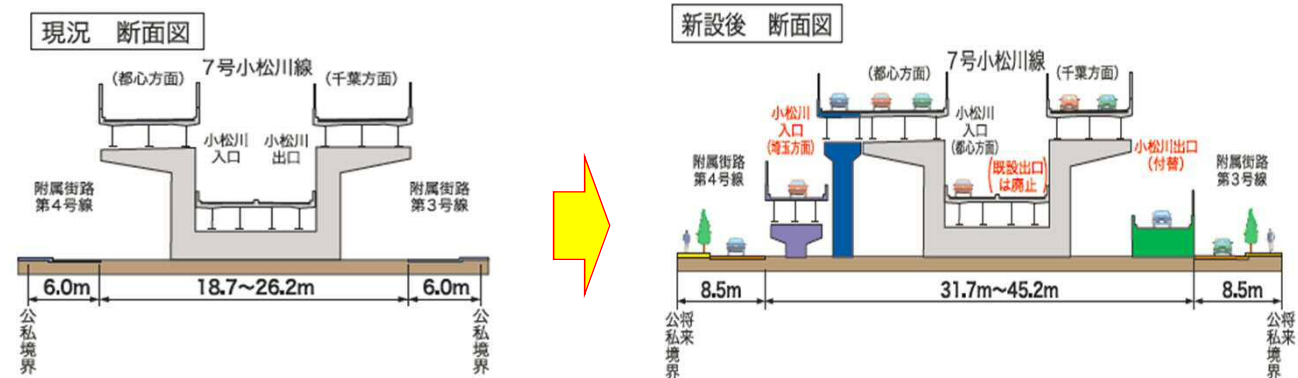
写真② 制震装置取付状況

(2-3) 小松川JCTの進捗状況

- 河川部では基礎工事、橋脚工事を実施中
- 陸上部では昨年8月に用地取得を完了(全105画地)し、準備工を実施中



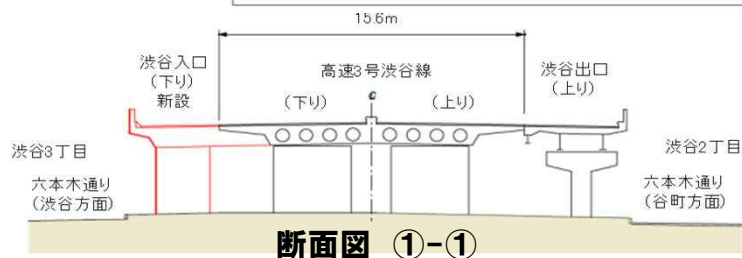
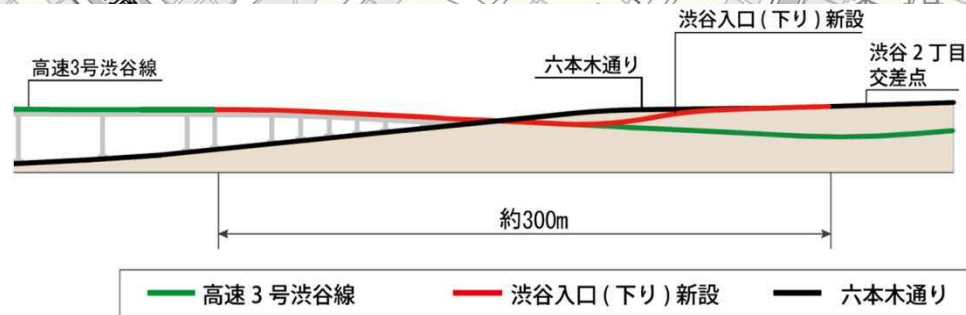
写真① 河川部基礎工事状況



写真② 橋脚工事状況

(2-4) 渋谷入口の進捗状況

- 平成27年2月に都市計画事業認可
- 平成27年5月末に事業説明会を実施予定
- 平成27年8月の工事契約に向けて発注手続き中



断面図 ①-①



断面図 ②-②



写真① 入口計画位置

2-〔3〕 安全・安心への取組み

道路を安全な状態に保つため、きめ細やかな点検及び監視を実施するとともに、計画的な補修、安全向上対策を推進

(1) 施設安全対策の推進

- ・立地条件や構造に応じて、適切な手法・頻度できめ細かな巡回点検、接近点検等の実施
- ・湾岸線等において舗装打換工事、都心環状線等において伸縮継手取替工事、3号渋谷線等において鋼構造物のき裂補強工事等を実施。
- ・1号横羽線(浜川崎付近)等においてノージョイント化工事を69レーン実施。
- ・新都心、並木トンネル等において、ジェットファン等の落下防止対策を実施。



舗装打換



伸縮継手取替



鋼桁き裂補強

(2) 交通安全対策の推進

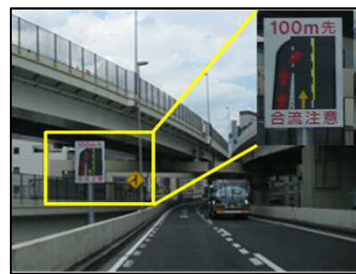
平成26年度の交通事故発生件数は10,342件で、対前年度比－1,199件(－10.3%)削減しており、平成27年度も引き続き安全対策を実施する。

◆ハード対策

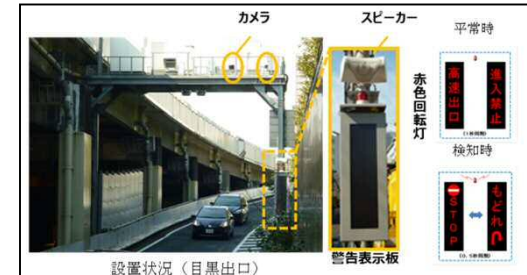
- ・総事故件数削減に加え、死傷事故件数削減にも着目し、事故多発地点を中心に交通安全重点実施箇所として36箇所の対策を計画。
- ・歩行者立入、逆走等に関する対策の取組みとして、従前の立入禁止看板等に加え、現地に合わせた対策を実施していくとともに、「立入、逆走検知・警告システム」の効果等を検証しつつ、必要な改良や運用方法等の見直しを行い、新たな設置箇所、仕様を決定。



注意喚起カラー舗装



合流部注意喚起板



立入、逆走検知・警告システム設置イメージ

◆ソフト対策

事故防止キャンペーン

バイク隊による休日模範走行

LED車両による広報



事故防止キャンペーン



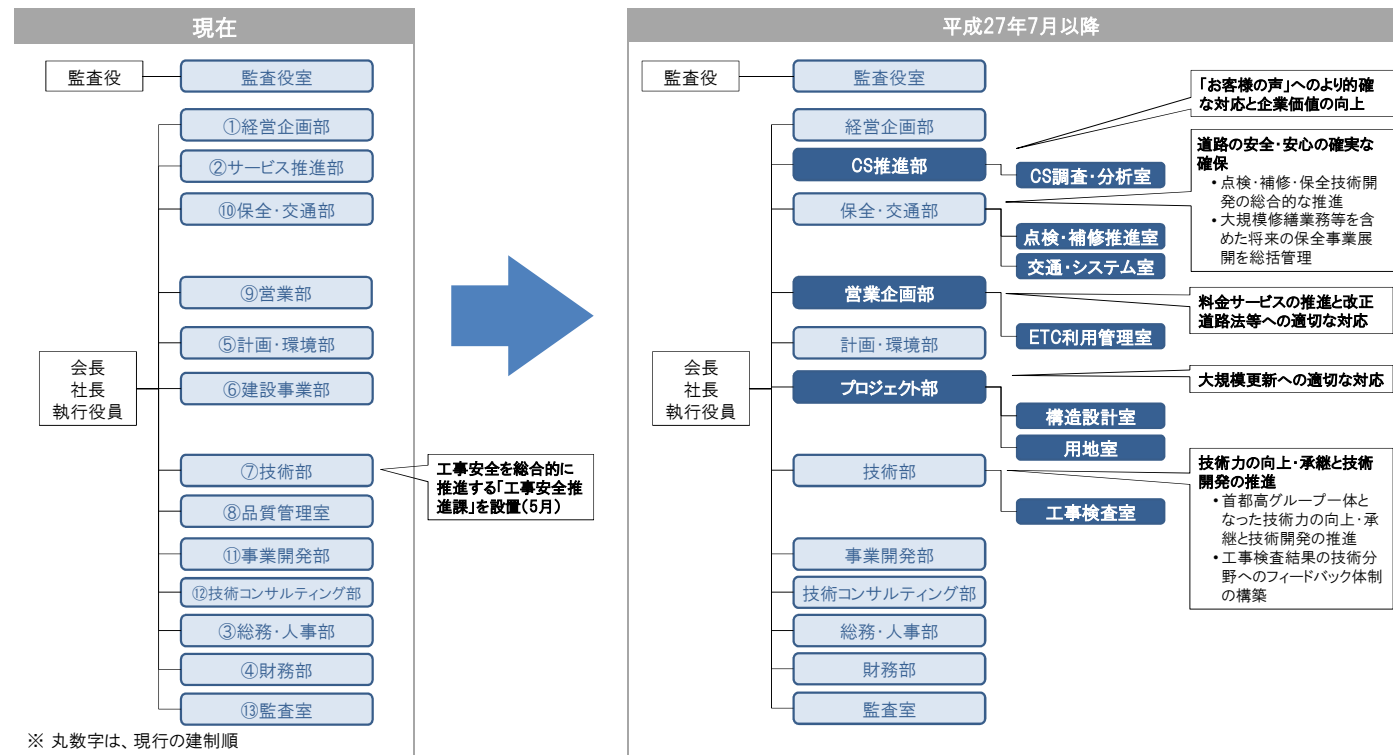
LED車両による広報

[3] 本社体制

(1) 高速7号小松川線高架下火災事故を受け、本年5月に、工事安全を総合的に推進するための組織として、「技術部」に「工事安全推進課」を新設し、工事に係る安全管理、災害予防、監督等の体制を強化

(2) 本年7月には、「お客様第一」及び「道路の安全・安心・快適」を軸として、以下のような改編を実施

- ① お客様へより適切なサービスを提供するため「サービス推進部」を「CS推進部」に改組
- ② 点検・補修を計画的かつ効率的に推進するため「保全・交通部」に「点検・補修推進室」を新設
- ③ 大規模更新事業を着実に推進するため「建設事業部」を「プロジェクト部」に改組し、「構造設計室」を新設



4.「大地震の発生を想定した業務継続計画(BCP)第3版」の策定

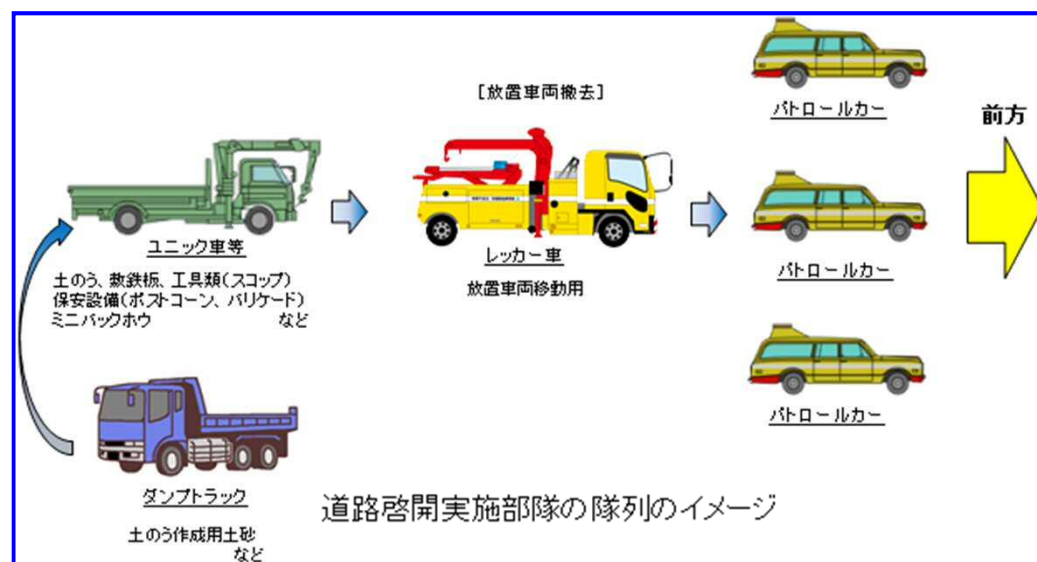
2013年12月に内閣府中央防災会議から首都直下地震の新たな被害想定が発表されたこと及び2014年11月の災害対策基本法の改正により、同法に道路管理者による放置車両等の移動に関する規定が盛り込まれたこと等を踏まえ、同12月に第3版を策定した。

◆改定内容

《道路啓開に関する規定を追加》

地震発生時には、被災者の救命・救助、被災延焼箇所の消火活動や支援物資の輸送などのために緊急交通路の確保が必要である。放置車両の移動、簡易な段差補修等の道路啓開作業を速やかに実施するための規定を整備した。

[1]道路啓開を実施する部隊の編成
(パトカー、レッカー車、トラック等)、
その運用方法等について定めた。



[2]他の道路管理者との連携方法について定めた。

弊社も参加し、国土交通省、東京都、NEXCO東日本、NEXCO中日本等の道路管理者で構成する「首都直下地震道路啓開計画検討協議会」において策定中であった「首都直下地震道路啓開計画(八方向作戦)」の内容をBCPに反映した。

道路管理者が協力し、都心を中心とする八方位毎に、高速道路と国道を組み合わせ、道路啓開を実施する。

■道路啓開路線イメージ “八方向作戦”

- 都心を中心とする“8方位”毎に、高速道路(NEXCO、首都高)、国道を組み合わせながら、道路啓開ルートを設定。
- 都心へ向かう1車線及び都心からの1車線(合計2車線)を緊急に確保。



5. 土木工事及び調査・設計業務における設計変更ガイドラインの策定

[1] ガイドライン策定の背景・目的

➤ 品確法の基本理念

受発注者双方が対等な立場で合意のもと、適正な額で公正な契約を締結するよう明記されている。

➤ 首都高の特殊性

都市内高速道路のため、現場条件、関係機関協議等から、履行内容を変更せざるを得ない場合があり、変更協議に多くの時間と労力を費やしている。

➤ 策定の目的

設計変更の対象となるケース、ならないケースについて例示し、受発注者間で共通認識を持つことにより、契約変更手続きを円滑に実施する目的で策定した。

[2] ガイドラインの主な内容

土木工事及び調査・設計業務におけるそれぞれの状況に合わせ、土木工事編、及び調査・設計業務編を策定。

- 設計変更等の手続き
- 設計変更の対象となるケース、ならないケース
- 設計変更の際に迷った事例 他

[3] 今後の予定

- 当社コーポレートサイトへの掲載
明日(5月21日)より、弊社コーポレートサイトにおいてダウンロードが可能。
- 関連業界団体への周知
関連業界団体へ6月に説明を行う予定。

6. ETCの更なる活用

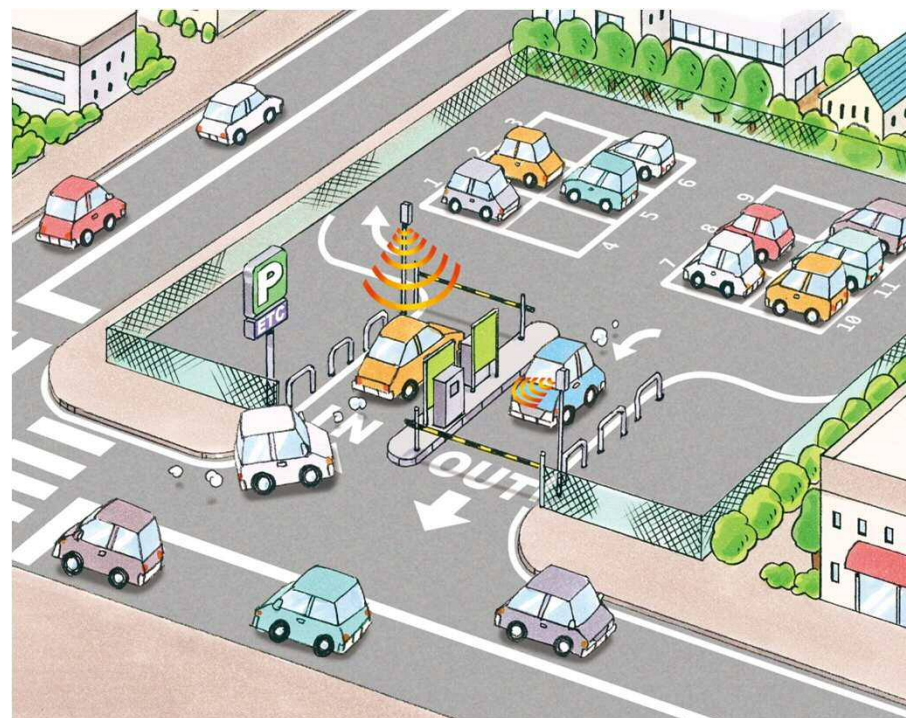
駐車場等へのETC普及に関する基本協定を締結

- 都内において多数の駐車場の管理を手がける公益財団法人 東京都道路整備保全公社と駐車場等へのETCの普及に向けて協力・連携して取り組むため、基本協定を締結。
- 駐車場でのETC活用の取り組みとして、同公社が管理する駐車場へのETCの導入を検討し、駐車場を出入する際の利便性向上を図る。
- ETCの多目的利用に向けて国等の関係機関と協力しながら検討を行う。

菅原社長と山口理事長による基本協定の調印式の写真
(5月19日(火)実施)



基本協定を締結した菅原社長(右)と
(公財)東京都道路整備保全公社の山口理事長(左)



駐車場におけるETC活用イメージ

7. ISO 10002 / JIS Q 10002 に基づく自己適合宣言をします

弊社は、経営理念である「お客様第一」に基づき、お客様満足向上を図り、お客様から信頼される企業を目指すことを目的として、本日、お客様対応マネジメントシステムの国際規格である「ISO 10002/JIS Q 10002」に適合していることを宣言します。

自己適合宣言書

自己適合宣言書

発行者の名称	首都高速道路株式会社
発行者の住所	東京都千代田区霞が関1-4-1
宣言の対象	首都高速道路株式会社における首都高お客様センター又はグリーンポストで受理したお客様の声の対応業務
適合の表明	弊社のお客様対応プロセスは、ISO 10002:2004/JIS Q 10002:2005の規格に適合していることを宣言します。
対象文書	規格番号 ISO 10002:2004/JIS Q 10002:2005 表題 Quality management-Customer satisfaction- Guidelines for complaints handling in organizations (品質マネジメント-顧客満足-組織における苦情対応のための指針)
宣言の発行日	2015年5月20日
その他	自己適合宣言の有効性に関する制限事項はない。
代表者の署名	首都高速道路株式会社 代表取締役社長 菅原 秀光
お問い合わせ先	首都高速道路株式会社 サービス推進部 03-3539-9248

注) この文書は、JIS Q 17050-1:2005 (ISO/IEC 17050-1:2004)「適合性評価 供給者適合宣言 第1部:一般要求事項」に基づき作成された自己適合宣言書です。

<参考:規格の適合判定>

- ①ISO10002の規格要件を実現する社内規定の整備
 - ・PDCAサイクルの構築
- ②社内規定に基づく業務を運用
 - ・PDCAサイクルの運用
 - (お客様対応プロセスを実施)
 - (お客様対応プロセスを監査)
 - (マネジメントレビュー(報告会)等)

ISO10002に基づくお客様対応方針

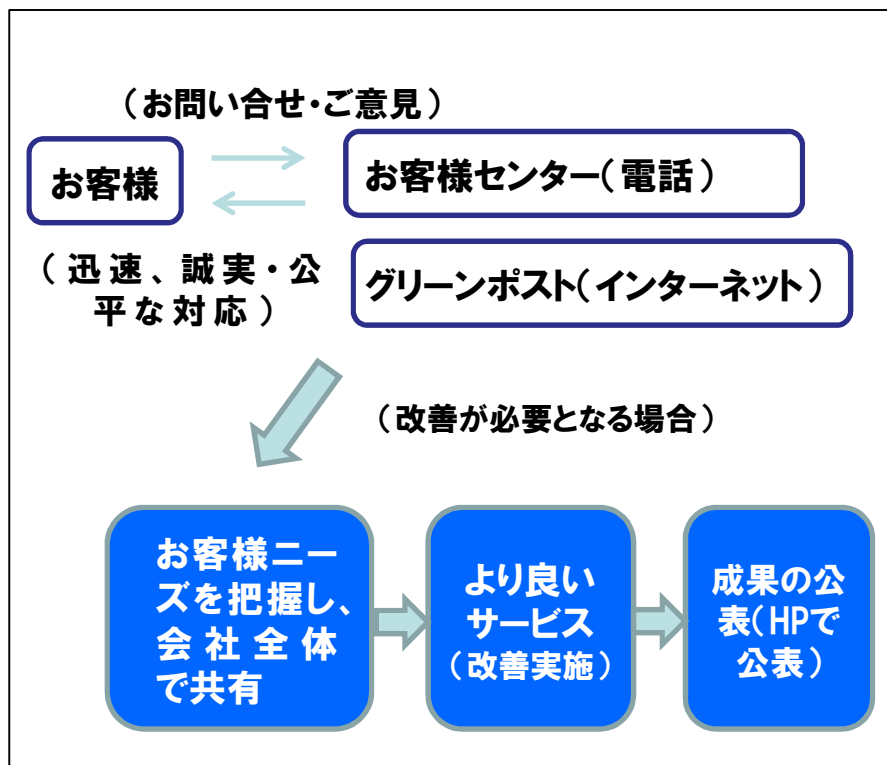
<お客様対応の基本方針>

首都高速道路株式会社は、「お客様第一」の経営理念に基づき、常にお客様の声に耳を傾け、迅速、誠実かつ公平に対応し、より良いサービスにつなげることにより、お客様満足の向上を図り、お客様から信頼される企業を目指します。

<お客様対応の行動指針>

1. お客様に迅速、誠実かつ公平に対応します。
2. お客様が何を望まれているかをしっかり把握し、お客様の視点で何ができるかを考えます。
3. お客様への説明は具体的にわかりやすく行い、ご理解・ご納得を頂けるよう努めます。
4. お客様の声は貴重な財産として会社全体で共有し、より良いサービスにつなげ、その成果は積極的に公表します。
5. お客様の個人情報の保護をはじめ、関係法令を遵守します。

<お客様対応プロセス>

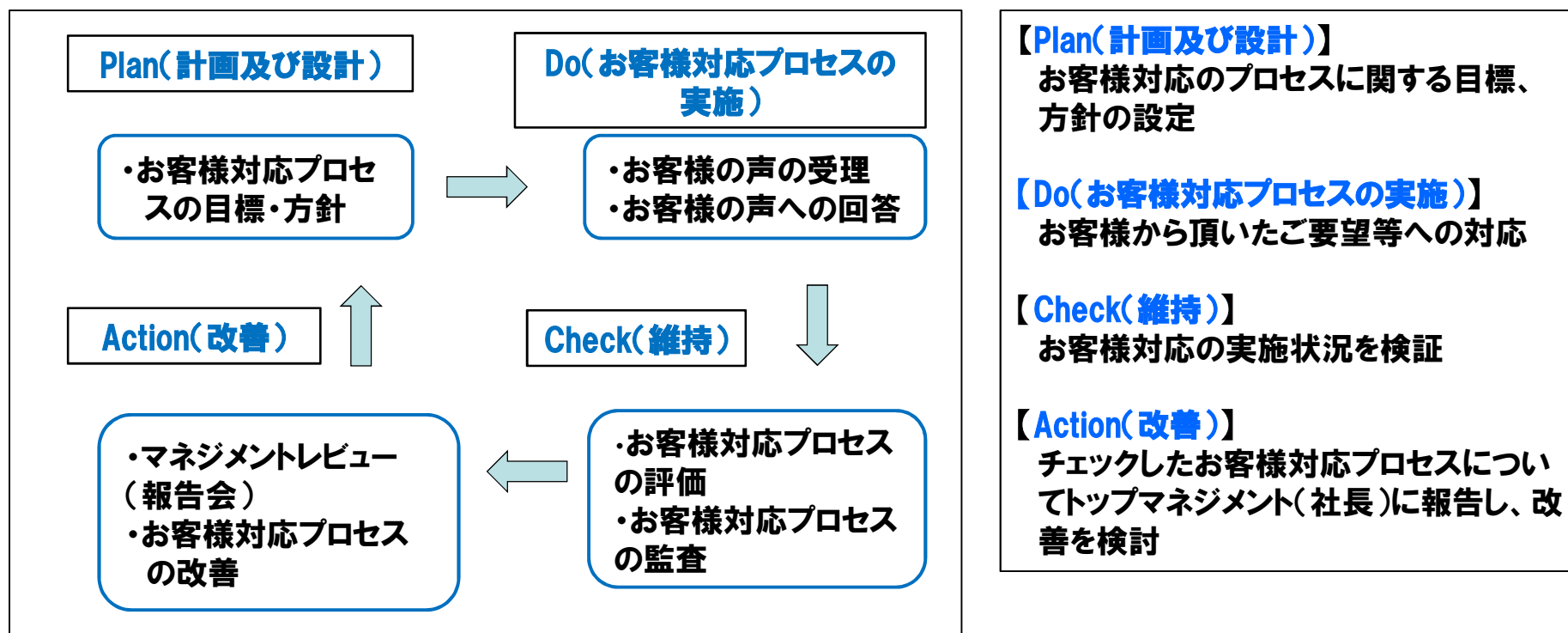


(参考) ISO 10002/JIS Q 10002及びPDCAサイクル

ISO 10002/JIS Q 10002

- ・ISO 10002(品質マネジメント-顧客満足-組織における苦情対応のための指針)は、平成16年にISO(国際標準化機構)が苦情対応に関する国際規格として策定したマネジメントシステムに関する指針であり、国内では平成17年にJIS Q 10002として制定。
- ・本規格の適合は、第三者の認証ではなく、自己適合宣言によって行うものであり、また、苦情対応の継続的改善を図るため、PDCAサイクルに基づく苦情対応の枠組み(マネジメントシステム)を構築・運用することが求められる。

PDCAサイクル



8. 環境への取組み

○平成27年度 首都高の環境イベント予定

	時期	イベント	場所	内容	マスコミ各社へ のご案内予定
おおはし 里の杜	6月2日	大橋換気所屋上自然再生緑地「おおはし里の杜」(以下「おおはし里の杜」)・田植え体験	大橋ジャンクション	地域の小学生による田植え体験	○
	7月13日	おおはし里の杜・自然観察会	大橋ジャンクション	地域の小学生による自然観察会	
	9月25日	おおはし里の杜・稲刈り体験	大橋ジャンクション	地域の小学生による稲刈り体験	○
	11月4日	おおはし里の杜・脱穀体験	大橋ジャンクション	地域の小学生による脱穀体験	
見沼たんぼ ビオトープ	7～10月	見沼たんぼ首都高ビオトープ・学生実習	見沼たんぼ首都高ビオトープ	専門学校生、大学生による水生植物の移植等	
	10月	見沼たんぼ首都高ビオトープ・自然観察会	見沼たんぼ首都高ビオトープ	地域の幼稚園児による自然観察会	
イベント 出展	6月6・7日	エコライフ・フェア2015	代々木公園	【環境省主催のイベント】 首都高のネットワーク整備効果による 環境負荷軽減に関する効果を紹介	
	9月26・27日	首都高環境フェア in お台場	メガウエブ	【首都高主催のイベント】 首都高のネットワーク整備効果による 環境負荷軽減に関する効果を紹介	
	1月16・17日	首都高環境フェア in みなとみらい	クイーンズスクエア		

※時期は、天候等により変更することがあります。

～ おおはし里の杜・稲作体験(平成26年度) ～



田植え



稲刈り



集合写真

～ 環境イベント(平成26年度) ～



エコライフ・フェア



首都高環境フェア①(お台場) ©GCP



首都高環境フェア②(お台場)

9. 「改善」の取組み ～質の高いサービスの提供を目指して～

首都高速道路(株)では、「お客様第一」の経営理念に基づき、お客様にご満足いただける質の高いサービスの提供を目指す。

[1] 「お客様の声」による改善

ホームページに設けた「グリーンポスト」、電話でのお問い合わせ窓口「首都高お客様センター」、「お客様満足度調査」など通じて、お客様から頂いたご意見を基に改善を実施。

平成26年4月～平成27年2月は、お客様から頂いた施設等の改善要望に関するご意見に基づき330件の改善を実施。

[2]お客様からお寄せいただいた「お客様の声」は施設などの改善に反映

事例	分類	箇所	お客様の声	対応	完成時期
①	情報提供	湾岸線(西) 臨海副都心入口	仮移設した湾岸線(西)臨海副都心入口の街路案内が分かりにくい	案内看板(緑板)増設及び一般街路標識(青板)に「首都高」案内表記を追加	H26.12
②	情報提供	都心環状線(外) 京橋入口	新京橋交差点方面から都心環状線(外)京橋入口を利用する時、既設の案内標識が入口より奥にあるため、先の交差点を右折するように見えるので、もっと手前に設置してほしい	京橋入口手前の高欄に「首都高京橋入口」案内を設置	H27.2
③	情報提供	1号羽田線(下) 羽田入口	1号羽田線(下)羽田入口にある街路案内標識は、左折が羽田入口専用にも係らず、一般道へも行けるような表示であるので、左折しても一般道には行けないことが分かるものに改めてほしい	左折が首都高専用であることが分かる案内標識に変更	H27.2

改善事例①

湾岸線(西)臨海副都心入口の案内看板(緑板)増設及び一般街路標識(青板)に「首都高」案内表記を追加により案内を改善



新規増設



改善事例②

都心環状線(外)京橋入口手前の高欄に「首都高京橋入口」設置により案内を改善



「首都高京橋入口」を設置



改善事例③

1号羽田線(下)羽田入口の街路標識の変更により案内を改善



10. 技術コンサルティング事業の受注状況等

[1] 国内技術コンサルティング事業

(1) 受注状況

- 平成26年度は、土木分野では橋梁の点検、補修・補強設計等、39件受注(対前年度5件増)、建築分野では建物耐震診断・建物耐震補強設計を15件受注(対前年度3件増)。
- 平成27年度現在、新たに地方公共団体の橋梁点検を2件、建物耐震診断3件を受注。

(2) その他

当社では首都高上に架かる跨道橋管理者と点検維持管理について協力関係の構築を進めている。この度、中央区、横浜市に引き続き、江戸川区と協定を締結し(1月)、今年度同区が管理する臨海橋の点検を行う予定。



今年度点検を実施する臨海橋
(湾岸線葛西付近)

[2] 海外技術コンサルティング事業

(1) 受注状況

- 平成26年度は、ベトナムにおけるITS導入検討や、カンボジアにおける高規格道路整備に係る調査業務等、合計、5件を受注(対前年度2件増)。
- 平成27年度現在、バンコク事務所が現地企業等と連携し、タイ高速道路公社の業務に当社として初めて参入するなど、これまでに4件を受注。

(2) 最近の受注案件

①タイ国「ETCシステム運営・維持管理に関する検討」

- ・発注者：タイ高速道路公社 (EXAT)
- ・受注者：キングモンクット大学・ITSC※ 他(当社は ITSCからの再委託)
- ・契約期間：H27.4.9～H27.12.5
- ・業務内容：既存のETCシステムの改善に関する検討

※ ITSC：ITS Consultancy（タイのコンサルタント会社）

②カンボジア国「プノンペン-バベット高規格幹線道路整備事業準備調査」

- ・発注者：独立行政法人国際協力機構（JICA）
- ・受注者：片平エンジニアリングインターナショナル・中日本高速道路(株)
首都高速道路(株)・オリエンタルコンサルタンツグローバル J V
- ・契約期間：H27.3.18～H27.9.25
- ・業務内容：当社は、有料道路制度・組織設計、橋梁設計、事業スキーム・資金調達計画を担当

(3) JICA長期専門家の派遣

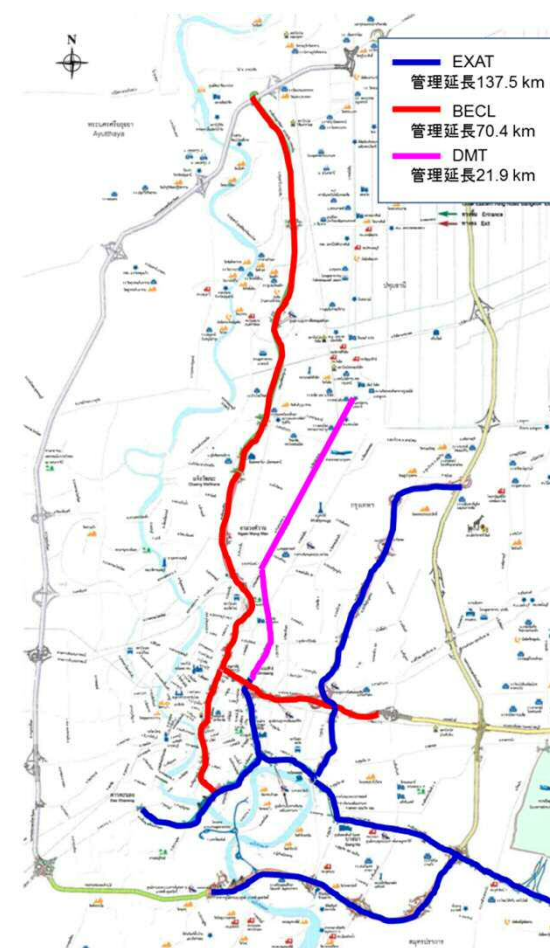
カンボジア国道路・橋梁の維持管理能力強化プロジェクトに派遣
(派遣期間：平成27年3月26日～平成29年3月25日)

(4) 海外からの視察・研修受け入れ（平成26年度）

45ヶ国、約530名の要人や技術者の視察・研修を受け入れ

(5) 海外での活動状況

タイ国において、現地及び本邦大学の主催による維持管理に関するセミナーに参加（3月、4月）。
また、インドネシア国において、都市開発・都市交通に関するセミナーに参加（2月）。

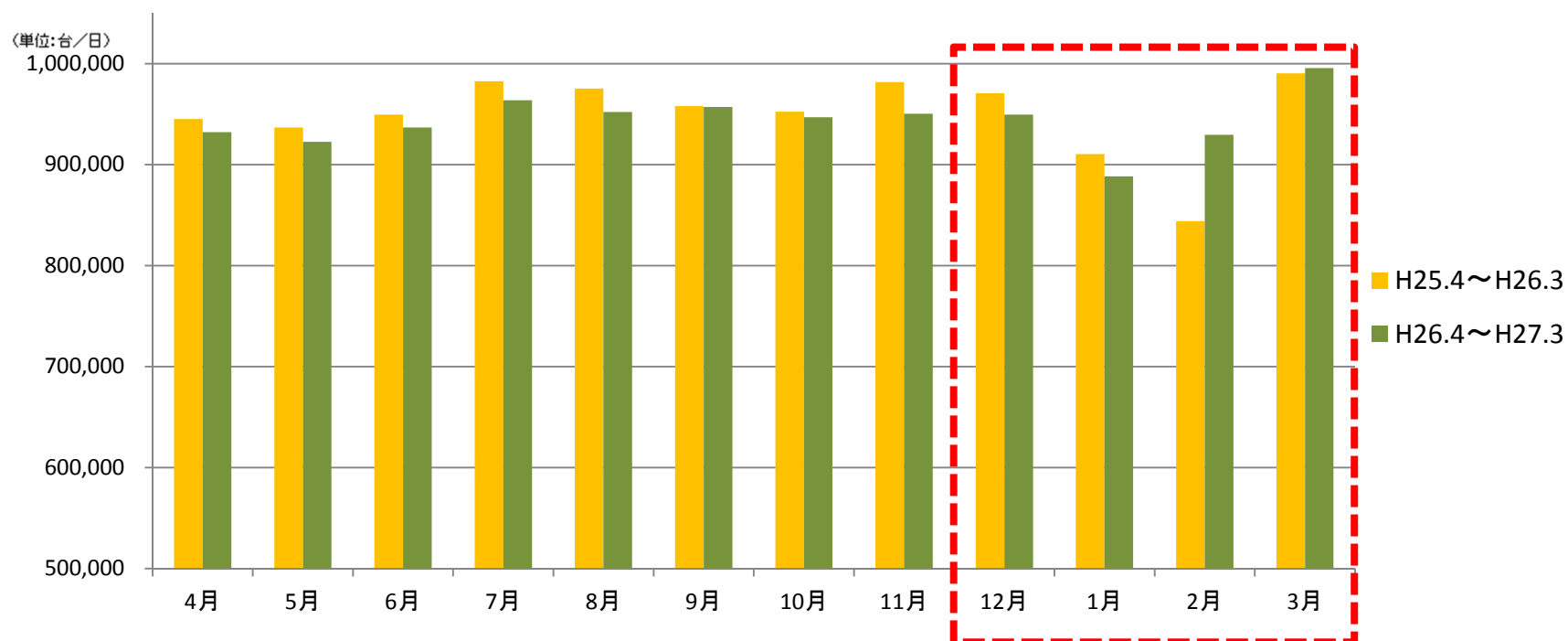


バンコク高速道路網

1 1. 最近の通行台数状況

○通行台数の推移(最近の状況)

- ・ 前年同月と比べて減少から横ばいへ転じており、緩やかな回復基調にあるものと推測される。



	12月	1月	2月	3月
通行台数(台/日)	949,591	888,473	929,408	995,646
前年同月比	97.8%	97.6%	110.1%	100.5%

平成26年度平均	
通行台数(台/日)	943,833
前年度比	99.3%

※平成27年2月は、平成26年2月に大雪の影響で通行台数が減少したため、前年同月比が大きく増加している。